

命の水のパイプライン ～湧水から学校へ～

上総掘りをつたえる会

アジアの子どもたちにきれいな水を！

世界にはきれいな水を口にする事ができない国がたくさんあります。“蛇口をひねれば水が出る”日本では当たり前のことが、当たり前ではない国がたくさんあります。公的な学校でさえ、水の施設が十分ではありません。上総掘りをつたえる会は、主にアジアの学校に井戸を掘るボランティアをしています。

「きれいな水を子どもたちに」この思いで私たちは活動を続けています。



写真1 フィリピン・バタンガス・キロキロ小学校の子どもたち

上総掘りについて

上総掘りは江戸時代から、現在の千葉県君津地方において、鉄棒式や檜棒式の突き掘り法から、明治16年頃に竹ひごを利用した掘り方へと発展しました。千葉県の小櫃川流域や小糸川流域で櫓・竹ひご・鉄管・スイコの組合せで上総掘りの独特の技術が発達し、自噴井戸が掘られ、人々の生活や農耕のために、水を供給してきました。明治25年頃には、新潟や秋田の油田開発にまで利用され、広く海外(インド)にまでも、「The Kazusa System」として紹介されています。高い水準の井戸掘りの技術です。しかし、現在の日本ではボーリング技術の発達や水道の普及により、ほとんど利用されなくなってしまい、上総掘り用具は国の重要有形民俗文化財に、技術は重要無形民俗文化財に指定

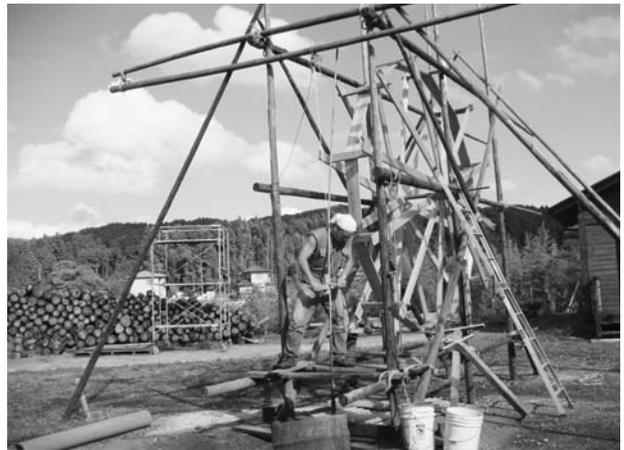


写真2 上総掘りのくっさく中(千葉で研修)

され、博物館入りしています。

会のあゆみ

1981年6月、上総掘りの先人の知恵を後世に伝えるとともに水の大切さを訴え、技術を継承しながら、国際交流・国際協力に役立てることを目的として設立し、活動を30年以上続けています。

現在は井戸掘りだけではなく、水道建設・トイレ建設・学校建設・衣料支援・給食支援・学用品支援を展開しています。

活動の目的と内容

フィリピンは公的な学校でさえ、水道が充分整備されていません。当会は上総掘りで深井戸を掘り、子どもたちの衛生環境を整えて、伝染病や皮膚病を予防し、生活の向上を目指しています。「万物の生命の源」でもある水を毎日の生活の中で使いたい時に使える環境にし、水の大切さ、日本の古い技術の素晴らしさをアジアの人々に知ってもらい、協働作業により相互理解を深め、国際協力に努める事を目的にフィリピン、バタンガス州を中心に活動をしてきました。

先輩の井戸掘り職人から若い会員に技術が継承され、その若い会員からフィリピンのボランティアに技術移転をしています。カウンターパートのアラン・ア

ンヘレスは掘削中、地中に掘鉄管を落とすというアクシデントにも引き上げる技術を覚え、クリア出来るようになりました。これは、上総掘りの中で大変難しい技術です。

「上総掘りをつたえる会」という名称の通り、先輩職人から若い会員へ、若い会員から海外へと「伝える」という目的は達成できたと確信しています。その技術を使って、フィリピンをはじめ水不足の国々の主に学校(写真3)に井戸を建設しています。今までに26基建設しました。



写真3 バタンガス州ワワ小学校の井戸



地図1 フィリピン全図

湧水からパイプラインで学校へ

2006年に「井戸も水道もない学校があるので、何とか井戸を1本掘ってもらえないだろうか?」という事で、当会の活動をインターネットを通して知った方が、会の事務所に訪ねてきました。



写真4 築60年の高床式校舎(セブ島ガダルーベ小学校)



地図2 フィリピンバタンガス州



地図3 フィリピンセブ島

2007年3月に「井戸も水道もない学校」を視察するためにフィリピン共和国のセブ島アレグリア市の山奥のガダルーペ小学校(写真4)を訪ねました。水はない、本はない、トイレは外、学習環境の悪さに驚き、先生に聞いてみると、児童の親(地域住民)の仕事もない。3度の食事も充分ではなく、子供は皆お腹をすかしていました。

セブ島アレグリア地区のほとんどの学校に井戸も水道もありません。学校で手を洗ったり、トイレの流し水など、毎日使う生活用水を毎日子供たちが2km離れた湧水の源泉まで水汲み(写真5)に行っていました。トイレも児童数(234名)の割には少なく外に3箇所しかありませんでした。(写真6)水が少ないので不衛生な環境になっています。水道ができれば、いつでも手や足を洗うことができ、トイレの水も充分流せるので、衛生面で向上が見込めます。いろいろ視察しながら、市や学校の関係者から聞いてみると、セブ島全体が岩盤のため、機械でも井戸を掘るのが困難という事でした。機械の動力でも難しい地層では、人力での上総掘りで掘ることができないと判断しました。湧水があるので、学校までパイプを使って水を引くことにしました。

セブ島アレグリア市ガダルーペ小学校には2007年

の視察から4年越しの計画で資金集めして2011年5月に湧水から学校へと「命の水」のパイプラインができました。湧水の源泉から学校までパイプで水を引き、学校にタンクを据えて、タンクに溜めてタンクから校舎までパイプを引き、蛇口を付けていつでも使えるようになりました。(写真7・8・9・10・11・12)

子どもたちは毎日の水汲みをしなくてよくなり、学習に専念する事ができるようになりました。

そして、2011年活動の最終日に次年度の活動のために、アレグリア市の小学校を数校視察し、アランガセル小学校(写真13)に水道とトイレを建設する計画をたてて帰国しました。



写真7 軽トラにパイプ2kmと10名のボランティア

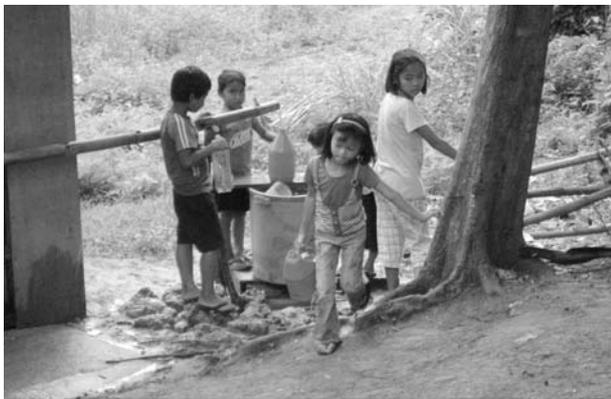


写真5 子どもたちの水汲み



写真8 湧水から山を越えて



写真6 セブ島ガダルーペ小学校のトイレ



写真9 パイプを持って山の中に敷設



写真10 2つ目の山を越えて



写真13 セブ島アランガセル小学校



写真11 源泉から水が届きました



写真14 完成した足洗い場



写真12 ガダルーベ小学校の完成した水道

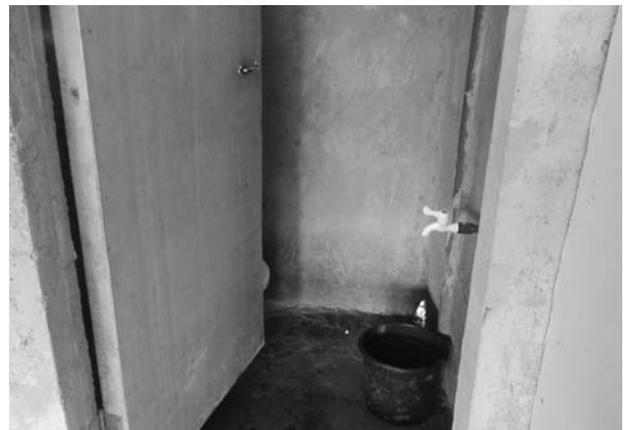


写真15 完成したトイレに蛇口も出来ました

アランガセル小学校は児童111名の複式学級1・2年生、3・4年生、5・6年生の3クラスで、トイレは1・2年生の教室に1箇所しかありませんでした。休み時間になると混み合って大変です。汲み置きしている水も少ないので不衛生でした。この学校はガダルーベ小学校の湧水とは別の源泉で学校から1,5kmのところにあります。水汲みは上級生の日課という事でした。

2012年9月、湧水の源泉から学校まで、パイプとタンクで手洗い場と足洗い場(写真14)を完成させ、トイレは訪比滞在中に完成しなかったため、カウンターパ

ートと現地ボランティアに依頼して帰国しました。10月中旬、2つの教室にトイレが出来上がり、写真を送ってもらいました。(写真15)トイレには水道を付けて、使いやすくなりました。1・2年生の教室のトイレにも水道を付けました。

活動中は作業中だけではなく、ともに昼食やおやつを食べる事で、現地ボランティア、児童、先生、父兄とも親しく会話をし、相互理解ができ、友好の花が咲きました。日本という遠い国からの支援が「水を得る」という協働作業によって、より近い国になったようです。水道ができ、トイレも増えて、学習環境がよくなり、児童・先生・地域の人々から喜びの言葉をもらいました。



写真16 ガダルーベ小学校での給食支援



写真17 アランガセル小学校での学用品支援（鉛筆）

活動する上で気をつけている事

今まで私たちは31年間活動して参りましたが、1度の事故も怪我もなく活動ができたのは、会員の注意する意識の高さと考えています。

1. 治安があまり良くない地域なので、自分自身の安全管理
2. カウンターパート・現地役所・学校・住民と打合せをしっかりとる事
3. 毎回、地質や天候が違うので、慎重な判断と行動をする事

今後の目標と課題

- これからも毎年、井戸や水道を建設し「命の水」を贈り続け、アジアの人々との交流を深め、少しでも生活向上の力になりたいと思っています。
- 国内の小中学校に水不足の国の現状と水の大切さの出前授業をしていきたい。(今までに千葉大学、勝浦市中学校、木更津市小学校、千葉市から呼ばれました。)
- 日本人の上総掘り技術者が少なく後継者の育成について当会のような小さい会では難しく大きな課題です。

終わりに

「アジアの子どもたちにきれいな水を!」のスローガンを掲げ、多くの皆様のご支援・ご協力に支えられながら、国際協力活動ができる事を、喜びとともに感謝申し上げます。

私達は「地球のすべての子どもたちに幸せを!」この願いで、学校建設・衣料支援・給食支援・学用品支援も行っています。(写真16・17)

日本水大賞国際貢献賞の2回目の受賞は、光栄に思うと同時に身の引き締まる思いでございます。

これからも『命の水』を贈り国際貢献を続けて参ります。

上総掘りをつたえる会

代表理事 高橋 文代

渡邊ひろ子 飯島 正孝 高橋 照存

渡辺 興博 渡辺はつ江 山田 信夫

野平 道子 高橋 昭子 高橋 和子